

地域との協働による砂防整備の取り組み ～有東木夢プロジェクトのこれから～

坂本 隆晟¹

¹中部地方整備局 静岡河川事務所 工務課 (〒420-0068 静岡県静岡市葵区田町3-108)

静岡河川事務所では、地域の安全度向上を図るために、有東木地区において平成24年度から砂防堰堤の整備を実施している。また、同時に当地域の観光や定住化の促進など地域活性化のために、有東木地区及び静岡市と連携して「有東木夢プロジェクト」を立ち上げている。ここでは、地域と行政が連携して行ってきた、これまでの取り組みについて報告するとともに、「有東木夢プロジェクト」の今後について考える。

キーワード 地域協働、ストック効果

1. はじめに

有東木地区は、安倍川支流の有東木沢に沿って3km程上がった標高500m～600mの山間にあり70数戸の集落がある。この地区は過去から土砂災害の危険性が高い地域であり、1982年の集中豪雨では、わさび田や田畑、道路、橋梁などに約20億円の被害が生じた。

有東木地区内には、依然として土砂整備率が低い溪流が多く存在していることから、静岡河川事務所では平成24年度より3溪流に各1基ずつの砂防堰堤建設を計画している。(図-1) 建設にあたり、地元や静岡市を交えて、地域のさまざまな夢や思いを掘り起こし、砂防事業を地域づくりに反映させようと「有東木夢プロジェクト」を立ち上げた。

本稿では、砂防事業を地元と連携して取り組むことで中山間地域の課題を解決し、地域の活性化に寄与することを目的として、本事業と地域との連携体制構築の取り組みについて述べる。

2. 有東木地区を取り巻く現状と課題

有東木地区の所在地は、静岡市葵区北部に位置する中山間地域である。(図-2) 本地区における現状と課題について整理した。



図-2 位置図



図-1 有東木地区における事業概要

(1) 観光資源

有東木地区は、農業・林業が主体であり古くよりわさびや、お茶の栽培が盛んに行われている他、有東木盆踊りや神楽といった「ユネスコ無形文化遺産」である神事や伝統芸能、民話が数多くある風情ある魅力の詰まった地域である。また、豊富な清流を利用したわさびは「わさび栽培発祥の地」として知られており、これらの文化との総合性が評価され、静岡県の景観賞最優秀賞を受賞するなど観光資源としての潜在価値が高い地区である。

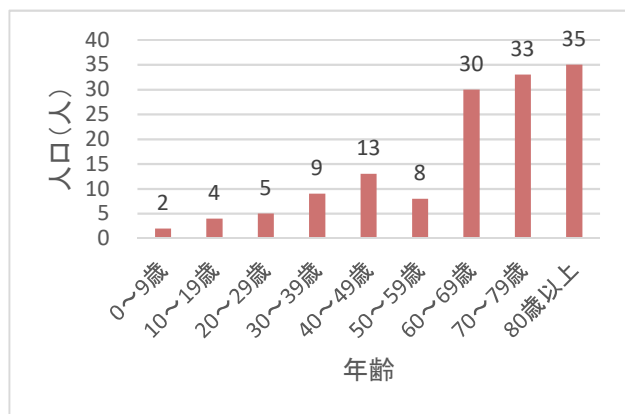
(図-3)



図－３ 溪流にて栽培されるわさび

(2) 少子高齢化

有東木地区では年々、少子高齢化が進み高齢者の１人暮らしの単身世帯も進行している。また、２０代までの若い世代が１１人とかなり少なく、人口の大半が６０代以上を占めていることから、地域コミュニティの維持や農業など第１次産業などの継続が課題である。（図－４）



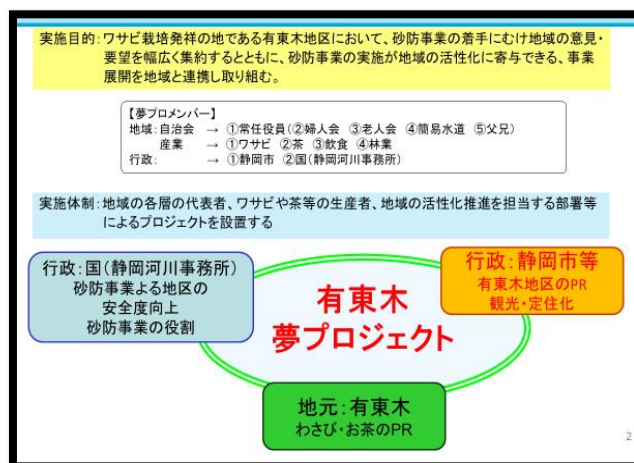
図－４ 有東木地区の年代別人口^{１）}
（２０２４年３月３１日時点）

３．有東木夢プロジェクトとは

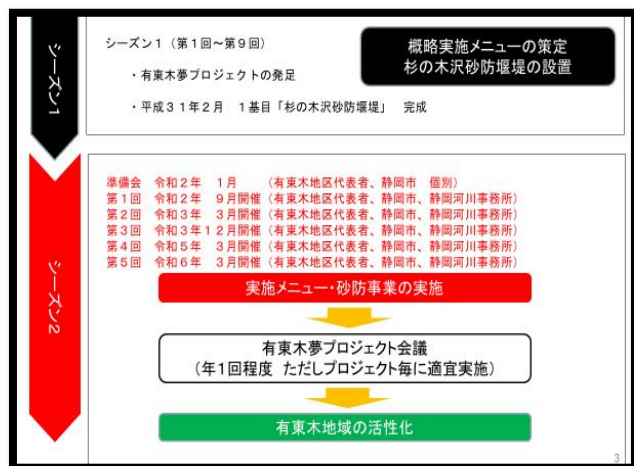
（１）有東木夢プロジェクトの経緯

有東木夢プロジェクトは有東木地区の杉の木沢、上有東木沢、有東木西沢の３溪流における砂防堰堤整備の着手にあたり、地域住民の夢や思いを掘り起こし集約するとともに、砂防事業と地域づくりが一体となるような事業展開を地域と行政が連携して取り組むことを目的としている。（図－５）

本プロジェクトは平成２４年度に発足し、令和５年度までに年数回程度、計１４回協議会を開催してきた。第９回までをシーズン１として概略実施メニューの策定及び杉の木沢砂防堰堤の設置を実施し、現在のシーズン２では残りの２基の砂防堰堤の整備と協議会にて決まったメニューの実施に取り組んでいる。（図－６）



図－５ 有東木夢プロジェクト体制図



図－６ 有東木夢プロジェクトの活動履歴

(2) 協議会の設置

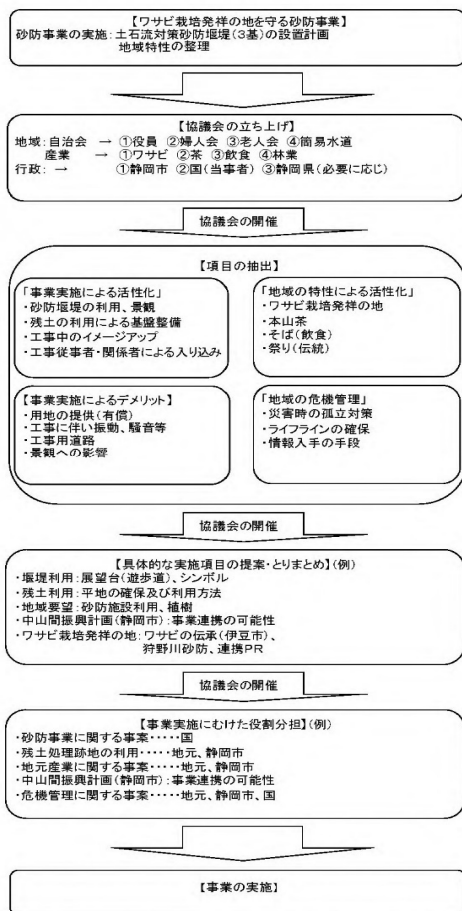
協議会は自治会役員、わさびや茶などの生産者、地域の活性化推進を担当する静岡市中山間地域振興課、静岡河川事務所で構成されている。協議会では、地域のさまざまな意見・要望について話し合い、事業実施項目について役割分担を含め議論している。（図－７）



図－７ 第５回有東木夢プロジェクト協議会の様子
（２０２３年３月）

(3) 有東木夢プロジェクト実施の流れ

有東木夢プロジェクトの流れを具体化したものを図－8に示す。



図－8 有東木夢プロジェクトの流れ

4. 有東木夢プロジェクトの実施状況

これまでの協議会で、さまざまな要望が出されてきたところである。地元と連携して取り組んできた、これまでの成果についてまとめる。

(1) 工事残土の利用

地元から、平地が少ないため、ヘリポートやイベント時の臨時駐車場などの要望が出された。そこで工事残土を有効活用し、集落と杉の木沢砂防堰堤が一望できる場所へ展望台の整備を行った。眺めの良い遊休地に砂利を敷き、転落防止策、案内看板を設置した。案内看板には工事概要、砂防事業の紹介だけでなく、有東木地区の歴史や文化を紹介する内容となっている。3者で役割を分担し、自治会からは遊休地の提供、静岡市中山間地域振興課は伝統行事のPR、静岡河川事務所及び工事受注者では砂防事業PRと3者が共同した形で整備が行われた。

(図－9)



図－9 展望台の整備前と後

(2) 工事用道路・管理用道路の活用

砂防堰堤工事にあたり工事用道路として、既設道路を拡幅することが必要であった。地元からも、大型バスが通行できるよう将来を見据えた拡幅を希望しているとの意見が出された。そこで地元と調整を行い、対向車とすれ違いが可能な幅5m以上確保できるように、一部拡幅を行った。(図－10) 砂防堰堤完成までに残りの箇所も拡幅を行う予定である。



図－10 道路拡幅箇所の整備前と後

(3) 景観への配慮

杉の木沢砂防堰堤を整備するにあたり、地元から砂防堰堤を展望台として観光施設にできないかとの意見が出された。砂防堰堤としての機能を果たす必要があるため全ては採用できなかったものの、堰堤の外観を城壁風と玉石張り風のデザインを組み合わせることで、集落に砂防堰堤が溶け込むように景観に配慮した構造物とした。(図－11)



図－11 杉の木沢砂防堰堤

(4) 観光施設「うつろぎ」の改修

有東木で人気の観光施設「うつろぎ」は地元のお茶やわさびを販売している他、蕎麦やわさび漬けが楽しめる施設である。SNS等でも話題になっており、観光客が増加していることから、地元より公衆トイレと駐車場整備の要望が出された。静岡市では、「オクシズおもてなし環境整備事業」において、老朽化した既存施設の効率的な改修とトイレ未整備地区に効率的な施設配置を行い、中山間地域にふさわしい施設として利用者の利便性、快適性向上を目的にトイレの整備を進める取り組みを行っている。そこで有東木地区においては、「うつろぎ」の隣接地に観光公衆トイレの建設と併せて、駐車場の整備を行った。（図－1 2）地元からは公衆トイレの用地の寄付、静岡河川事務所では発生土を活用した駐車場の基盤整備を行うなど3者が連携して施設改修を行った。



図－1 2 「うつろぎ」の公衆トイレと駐車場

(5) 広報

有東木夢プロジェクトの取り組みが進むにつれて、参加者からその話題が少しずつ広まっていったことから、地元新聞や業界紙で本プロジェクトについて取り上げていただく機会を得ることができた。（図－1 3）本プロジェクトの認知度を上げ、有東木地区を知ってもらう機会を増やすことで参加者の増加や意欲向上だけでなく、地域活性化と併せて砂防事業のPRなど、活動の後押しとなる良い契機となった。



図－1 3 新聞掲載例（建通新聞）

5. 今後の課題と取り組みについて

有東木夢プロジェクトについて、積極的に広報活動をしているが、まだ有東木地区や砂防事業の取り組みの知名度は高いとは言えない。また、現時点では、本プロジェクトメンバーに占める若い世代が少なく、彼らを主軸に活躍する機会がないことから、今後は若い世代からも積極的に企画や要望を出してもらうことで更なる活気を生み出していきたい。

また、有東木夢プロジェクトの協議会を重ねるにつれて、新たな話題での意見交換が少なくなり、工事の進捗状況を報告することが主な内容になっていた。そこで令和5年度より全国の地域活性化の事例を参考に、砂防堰堤のライトアップや防災避難所の整備を提案した。特に防災避難所については、かねてより、地元からヘリポート設置の要望を受けていたところであり、平成25年度から実施している、工事発生に伴う残土の有効活用によって課題であった平場が確保されつつあり、そこにヘリポートを整備できないか静岡市と調整をしている。ソフト対策においても、避難訓練や3基の砂防堰堤への監視カメラ設置などを計画している。また、従来のメニューの砂防堰堤の整備や道路拡幅についても引き続き取り組んでいく。

6. 終わりに

有東木夢プロジェクトは、立ち上げから12年を迎えようとしており、2基目の上有東木沢砂防堰堤も完成が近づいている。砂防事業の枠組みとして、本プロジェクトがこれからもどこまで有東木地区の地域活性化に寄与できるか、さらなる取り組みについて試行錯誤を続けていきたい。

最後に、有東木夢プロジェクトの活動にご尽力いただいた全ての方々に感謝の意を表するとともに、引き続き有東木地区の持続的な発展に向けて鋭意取り組んでいきたい。

参考文献

- 1) 静岡市：統計情報：国勢調査